

いま、地域交通がうれしい。



一般質問を行う高見のり子議員

高齢者が元気に暮らすまち

新年度から 支援拡大



2018年度から始まった「地域交通スタート支援事業」。宮城野区燕沢地区では「のりあい・つばめ」が運行されています(写真右)。同事業は新年度から「みんなで育てる地域交通乗り乗り事業」に発展。運行経費の補助率を引き上げ、本格運行経費への補助新設、高齢者や障害者への運賃補助などが実現します。日本共産党は昨年10月の市議会で、これら施策を提案していました。地域のみなさんと一緒に声をあげてきたものです。

高見議員「先日、のりあい・つばめに乗車したところ、地域のみなさんの喜びの声をたくさんうかがった。のりあい・つばめは、連合町内会、社協、地域包括支援センターはもちろん、地域の病院や商店が協賛し協力をいただいていることが大きな支えになっている。これまでスタート支援事業を活用したのは、燕沢地域だけだったが、地域公共交通の充実は様々な地域で求められている。これまでなかなかチャレンジできなかった

地域が、新年度からはじまる『乗り乗り事業』を活用できるよう、取り組みを求める。事業を進める際は、地域にだけ責任を押し付けるのではなく、取り組みを支える職員体制の強化が大切だ」
都市整備局長「乗り乗り事業を使い、さらに多くの地域で導入が進むよう、車両や運行形態を検討し、最適な移動手段となるようにする。市は、支援に必要な体制を整え、本格運行後も支援し、より多くの地域で取り組んでいきたい」



通院や買い物に喜ばれている、のりあい・つばめ

敬老乗車証制度をよりよいものに

高見議員「敬老乗車証は、元気な高齢者の移動を支えている。たくさん的高齢者にバスに乗っていただくことは、運賃収入を増やすことにつながる。ところが上限があるため、外出や利用を控える高齢者も多くいる。また、住んでいる地域によって格差が生まれている。上限をなくし高齢者の活動を支えるのは、社会全体の利益だ」

健康福祉局長「将来的な上限額のあり方について、利用実態の結果を分析し、検

討する」

消費税増税で運賃アップ、 利用上限はそのまま

高見議員「市は、2018年から実態調査もして、上限を超えている方のことも把握している。消費税の増税で10月から運賃も上がり、上限までの使える枠が狭まっている。そのことを踏まえた分析をすすめ、上限の撤廃など制度改善にいかすべきだ」

JR福田町駅のバリアフリー化

高見議員「福田町周辺の町内会や住民らでつくる『みんなにやさしい福田町をつくらう会』では昨年11月、仙台市・JR東日本との情報交換会を開催した。そこでは、課題の洗い出しだけで2年も経過しているとし、対応の遅れを追及した。市民をいつまで待たせるつもりなのか。足腰の弱い高齢者や車いすの方は、福田町駅を使わず、エレベーターのある隣の駅にタクシーで移動して列車に乗っている。バリアフリー化の願いは切実だ。」

都市整備局長「現位置でのバリアフリー化は困難であり、駅の移設を検討している。早期にバリアフリー化が実現できるよう取り組んでいく」

高齢化すすむ団地・市営住宅

市内各地の団地、市営住宅では、高齢化が進んでいます。すでに再整備事業が終わった鶴ヶ谷第1市営住宅では、高齢化率が40%台です。高見のり子議員は、これから再整備がはじまる鶴ヶ谷第2市営住宅とあわせて、入居者の見守りやコミュニティの充実を提案しました。



安心と元気

高見議員「鶴ヶ谷第1市営住宅では、住宅の一角に高齢者の見守りを目的とした2つのLSA室が配置され、現在は社会福祉協議会とNPO団体の事務所として貸し出されている。社協の事務所は、主に会議や地域行事に、NPOの事務所はお料理教室、ギターと歌の教室、スマホ教室などで使用されている。今後、鶴ヶ谷第2市営住宅の再整備事業がはじまる。新しい市営住宅内にも第1住宅のような部屋をつくり、

高齢者の見守りやコミュニティの維持のために活用すべきだ。こうした取り組みを、市内の他の市営住宅にも広げてはどうか」
都市整備局長「見守りやコミュニティの整備内容は、検討していく。他の市営住宅では、話し合いを行っていく」

高見議員「鶴ヶ谷第2市営住宅の再整備事業は来年度、60棟1,630戸のうち第1工区約100世帯の仮移転

がはじまり、住民がバラバラになる。再整備事業期間中も住民のコミュニティが維持できるよう、市営住宅の空き室を利用して、NPOや地域包括支援センターの力も借りて、住民が自由に交流できる場所をつくるべきだ。また、再整備事業で生まれる空き地を子どもたちが遊ぶ広場にするなど有効活用すべきだ」
都市整備局長「空き住戸の有効活用も含め進める。空き地は、地域の活性化に資するよう利用する」

高齢者支える市民の活動を支援して

高見議員「本市の高齢化が進む中、市はこれまで、お食事会やサロン、買い物、ゴミ出しなど高齢者のお手伝いをする住民の自主的な取り組みを支援してきた。これらの自主的で多様な取り組みを継続できるよう支援し、市内に広がっていくことが重要だ」
健康福祉局長「市民の自主的な活動の支援を通じて、多様な支え合い活動が地域に広がるよう取り組んでいく」

肺炎球菌予防接種

高見議員「肺炎で亡くなる方は年間12万人、うち96%が65歳以上だ。肺炎をおこす原因菌で最も多いのが肺炎球菌だ。肺炎球菌予防の定期接種は65歳になる年度に受けるが、受けた方は4人に1人。まだまだ知られていない。65歳を過ぎれば、いつでも定期接種が受けられるよう国に求めよ」
健康福祉局長「当該年度で65歳になる方に、よりわかりやすく周知徹底する。国は、経過措置（2013年度まで）で70歳以上の5歳刻みと100歳以上を対象としている。この期間内に接種していただく」

介護の人手不足

高見議員「介護の人手不足は、深刻だ。必要な人材が確保できず事業所は、閉鎖や休止に追い込まれている。介護職員は、過酷な労働実態のなか『よりよい介護をめざしたいが、身も心もボロボロだ』と告発している。介護職員の処遇改善は、急務だ。市長の公約である介護職員への市独自の支援策を求める」
健康福祉局長「適切な介護報酬の設定は、国の責任でなされるべきだが、本市としても、より効果的な人材確保、離職防止に取り組んでいく」

医療・介護の負担増

高見議員「国は、75歳以上の医療費の窓口負担を原則1割から2割に引き上げ、高齢者医療の現役並み所得の対象拡大、薬剤費の保険給付外しを狙っている。介護では、2021年に介護保険法改定が予定されており、介護施設の食費、住居費の軽減措置の対象絞り込みなどがなされようとしている。医療と介護の改悪をやめるよう国に求めよ」
健康福祉局長「過重な負担への配慮など、引き続き国に要望していく」